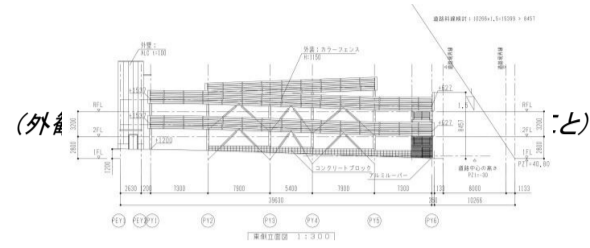


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)日進市赤池箕ノ手4街区計画 駐車場棟	階数	地下0階地上2階
建設地	仮換地:日進赤池箕ノ手土地整理事業地内4街区1番地6番	構造	S造
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	0人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年3月 予定	評価の実施日	2022年7月25日
敷地面積	2,968 m ²	作成者	山本 勇
建築面積	1,223 m ²	確認日	2022年8月1日
延床面積	2,467 m ²	確認者	山本 勇



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.6 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み #DIV/0!

③上記+②以外の #DIV/0!

④上記+ #DIV/0!

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 2.4**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.2

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 2.9**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.6

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">N.A</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <div style="text-align: center;"> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="font-size: 1.5em; font-weight: bold;">61.7 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="font-size: 1.5em; font-weight: bold;">0.0 %</p> </div>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">2.3</p> <div style="text-align: center;"> </div>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
			評価点	評価点	重み係数	評価点		評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質								2.4	
Q1 室内環境								-	
1 音環境								-	
1.1 室内騒音レベル			3.0	-	-	-	-	-	
1.2 遮音			-	-	-	-	-	-	
1 開口部遮音性能			-	-	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能			-	-	-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	-	-	-	-	
1.3 吸音			-	-	-	-	-	-	
2 温熱環境								-	
2.1 室温制御			-	-	-	-	-	-	
1 室温			3.0	-	-	-	-	-	
2 外皮性能			3.0	-	-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性			3.0	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御			3.0	-	-	-	-	-	
2.3 空調方式			3.0	-	-	-	-	-	
3 光・視環境								-	
3.1 昼光利用			-	-	-	-	-	-	
1 昼光率			3.0	-	-	-	-	-	
2 方位別開口			-	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備			3.0	-	-	-	-	-	
3.2 グレア対策			-	-	-	-	-	-	
1 昼光制御			5.0	-	-	-	-	-	
3.3 照度			3.0	-	-	-	-	-	
3.4 照明制御			3.0	-	-	-	-	-	
4 空気質環境								-	
4.1 発生源対策			-	-	-	-	-	-	
1 化学汚染物質			3.0	-	-	-	-	-	
4.2 換気			-	-	-	-	-	-	
1 換気量			3.0	-	-	-	-	-	
2 自然換気性能			3.0	-	-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮			3.0	-	-	-	-	-	
4.3 運用管理			-	-	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視			3.0	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御			3.0	-	-	-	-	-	
Q2 サービス性能								2.2	
1 機能性								-	
1.1 機能性・使いやすさ			-	-	-	-	-	-	
1 広さ・収納性			3.0	-	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応			3.0	-	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画	独自		3.0	-	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性			-	-	-	-	-	-	
1 広さ感・景観 (天井高)			3.0	-	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース			3.0	-	-	-	-	-	
3 内装計画			3.0	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理			-	-	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計			3.0	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保			-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性								2.4	
2.1 耐震・免震・制震・制振			0.5	2.4	0.52	-	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			0.4	3.0	0.48	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.80	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			0.3	1.5	0.33	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			-	-	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②		-	1.0	0.71	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			-	3.0	0.29	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			-	-	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			-	-	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			-	-	-	-	-	-	
2.4 信頼性			0.1	2.5	0.19	-	-	-	
1 空調・換気設備			3.0	3.0	0.25	-	-	-	
2 給排水・衛生設備			3.0	-	-	-	-	-	
3 電気設備			3.0	3.0	0.25	-	-	-	
4 機械・配管支持方法	②		3.0	3.0	0.25	-	-	-	
5 通信・情報設備			3.0	1.0	0.25	-	-	-	

3 対応性・更新性					0.4	2.0	0.48	-	-	-	2.0
3.1 空間のゆとり					0.3	1.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり					-	1.0	1.00	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ					3.0	-	-	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	2.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性					0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性			②		-	-	-	-	-	-	
2 給排水管の更新性					3.0	-	-	-	-	-	
3 電気配線の更新性					3.0	3.0	0.17	-	-	-	
4 通信配線の更新性					3.0	3.0	0.17	-	-	-	
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.33	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保					3.0	3.0	0.33	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)						-	0.57	-	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出			独自③		-	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性						-	-	-	-	-	2.9
LR1 エネルギー						-	0.40	-	-	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制					3.0	-	-	-	-	-	
2 自然エネルギー利用					3.0	-	-	-	-	-	
3 設備システムの高効率化			BEI=		3.0	-	-	-	-	-	
4 効率的運用					1.0	3.0	1.00	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価					-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング					-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制					-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル						-	0.30	-	-	-	3.1
1 水資源保護					0.1	3.0	0.15	-	-	-	3.0
1.1 節水					3.0	-	-	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					1.0	3.0	1.00	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	2.7	0.63	-	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減			②		-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					3.0	1.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自		3.0	4.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	4.3	0.22	-	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	5.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤					-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)					-	5.0	1.00	-	-	-	
3 冷媒					3.0	-	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境						-	0.30	-	-	-	2.6
1 地球温暖化への配慮			①	#DIV/0!	-	-	-	-	-	-	
2 地域環境への配慮					0.5	2.1	0.50	-	-	-	2.1
2.1 大気汚染防止					-	-	-	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					-	2.0	0.67	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.3	2.5	0.33	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制			独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮					0.5	3.1	0.50	-	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音			独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動			独自		-	-	-	-	-	-	
3 悪臭					-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制					-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制					-	1.0	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制					-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制					0.2	3.7	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					-	4.0	0.70	-	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)日進市赤池箕ノ手4街区計画 駐車場棟

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			N. A
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00
② 資源の有効活用			2.3
Q2-2	耐震性・信頼性	2.4	0.22
Q2-3	対応性・更新性	2.0	0.21
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19
③ 敷地内の緑化			2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17
			外構緑化:61.7%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			1.0
		(評価ポイント)	
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)日進市赤池箕ノ手4街区計画 駐車場棟

計画上の配慮事項	
総合	自然環境に配慮し、周辺環境に調和するように建物を計画した。また、社会の良質なストックとなるよう躯体の耐久性を高め、CO2排出量の削減に努めるなどして、ライフサイクルを通じた環境負荷低減をめざした。
Q1 室内環境	対象外。
Q2 サービス性能	階高を3.2mとし、ゆとりある空間の確保に努めた。
Q3 室外環境(敷地内)	周辺地域に対して景観を損なわないよう配慮した。
LR1 エネルギー	照明設備にLED採用。
LR2 資源・マテリアル	躯体と仕上げの分離および、内装材と設備ルートに配慮した。
LR3 敷地外環境	周囲の共同住宅の状況を考慮し、世帯数に対し十分な駐輪場台数を確保した。
その他	駐車場率を100%で、無理に大規模にさせず、2層3段の駐車場の規定の範囲で計画した。